

科目名	選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	各運動の合理的な実践を通じて、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、障害を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 実践の中で技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	各競技での経験を活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとしてすることができる。
価値	わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し、より大きな力を発揮するために、集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基礎	できる 専門体力を有し、競技に応じた技術を身に付けている。	専門競技に必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
準備	する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業	授業	授業

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎練習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか (教材)

各競技に必要なもの

どのように学ぶか (授業方法など)

・講義 ・ペア学習・グループ学習 ・競技毎の練習
--

科目名		音楽Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	・幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。 ・音楽・スポーツ共通の重要事項であるリズム感を身につける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える ・読譜能力を身につけ歌唱・リコーダーの演奏ができる。 ・音楽の歴史的背景を理解し鑑賞することができる。	楽曲のイメージと自己のイメージを結び付け、表現するための技能を身につけることができる。	・グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。 ・積極的にいろいろな音楽を鑑賞することができる。
	<i>A</i> わかる ・ボディパーカッションにより体を使ってリズム感を身につけることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心を持ち鑑賞することができる。	・アーティケレーションや強弱をつけた表現ができる。 ・時代による音楽のスタイルの違いを感じ取ることができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。 ・積極的に音楽を鑑賞することができる。
	<i>B</i> できる ・腹式呼吸や正確なリコーダーの運指で、合唱・リコーダーアンサンブルができる。 ・音楽の歴史に関心を持つことができる。	・#やbのあるメロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。 ・時代による音楽の変化を感じ取りながら鑑賞することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	<i>C</i> する ・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち、合唱やリコーダーアンサンブルに喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ルネサンス・バロック時代の音楽 アルトリコーダー「グリーンスリーブス」 ボディパーカッション 実技テスト
2 学期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」 ボディパーカッション 期末テスト 実技テスト
3 学期	近代の音楽 歌唱「Memory」 アルトリコーダー「モルダウ」 実技テスト

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名		美術Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	幅広い美術活動を通して美術を愛好する心情を育むと共に、美術の歴史と大作画家の名作に触れることで美術文化についての理解を深める。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	<i>S</i> 使える 正確な描写、明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
	<i>A</i> わかる 物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形、材質、トーンの表現ができる。	デッサン、彩色学習に積極的に取り組むことができる。
	<i>B</i> できる 基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて、表現することができる。	デッサン、クロッキー、鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	<i>C</i> する 基礎的な描写理論を理解することができる。	美術に関心を持ち、描写や彩色に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	提出作品 学習シート 考査	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 名画鑑賞 2 ダビンチの人生とその作品、背景と作品の模写 フェルメールの人生とその作品、背景と作品の模写
2 学期	色彩構成 ポスター作製 砂絵の世界 1 期末考査
3 学期	砂絵の世界 2 オリジナル作品の制作 まとめ

何で学ぶか (教材)

高校生の美術 1 (日本文教出版) 副教材 スケッチブック、水彩画用具 (中学校で使ったものを利用してかまいません)。 それぞれの題材や活動で必要な材料は、半期ごとに購入してもらいます。

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ・作品鑑賞、作品、作者説明 作者の生き様、時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する (YouTubeなどの映像コンテンツの使用)

科目名		書道Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図る。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	漢字・仮名の書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身につけ表している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
	漢字・仮名の書の古典の、書風と用筆・運筆の関係を理解している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもとうとしている。
	漢字と仮名の調和した表現の基礎的な技能を身につけ表している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化についてその価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを理解しようとしている。
	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解している。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもとうとしている。
評価方法	提出作品 学習シート 考查	提出作品 学習シート	提出作品 学習シート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅰ ・ 漢字の書の学習(行書)「集王聖教序」 ・ 漢字の書の学習(行書)「蘭亭序」 ・ 漢字の書の学習(楷書)「風信帖」
2 学期	・ 漢字の書の学習(行書)「争坐位文稿」 ・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅱ ・ 期末考查
3 学期	・ 仮名の書の学習 ・ 漢字仮名交じりの書の学習Ⅲ

何で学ぶか(教材)

教育図書『書Ⅰ』 補助プリント 学習シート パワーポイント等の映像資料
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業(講義・実技) グループ学習(相互批評等) 鑑賞学習

科目名	保健	授業時数	週 1 単位
コース・学年	スポーツ科学	コース	2 学年
目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、日常生活における自らの課題を発見し、目標を立てて学ぶ力を身に付ける。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
基	各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。	様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
準	健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康、性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康、医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備、食品の安全を守る活動 働くことと健康、働く人の健康づくり

何で学ぶか (教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育 [改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート [改訂版]』 プリント クロムブック

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 グループ学習 調べ学習

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	グループの活動を行う中で、他者と協力してより良い作品を作り上げていくことを通して、協働力、実行力、発信力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	<i>S</i> 使える 調べた知識をもとに、言われた以上の工夫を加えて知識・技能を使える。	競技を考える中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み、課題を自ら設定して解決することができる。
	<i>A</i> わかる 学んだ知識をもとに、求められる水準で知識・技能を使える。	競技を考える中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して積極的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	<i>B</i> できる 学んだ知識をもとに、他者とも協力しながら課題をやり遂げることができる。	競技を考える中で、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	<i>C</i> する 学んだ知識をもとに、難しい課題にも取り組もうとする。	競技を考える中で、他者と協調しながら構想を形にしようとするができる。	学習内容に取り組み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	競技内容などの成果物	競技の内容などの成果物、グループ活動	競技内容などの成果物、グループ活動

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体育祭種目を考える
2 学期	正解のない問題を考える
3 学期	正解のない問題を考える

何で学ぶか (教材)

chromebook エナジード スタディサプリ

どのように学ぶか (授業方法など)

・個人での調べ学習 ・グループごとでの活動
--

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	S 使える 複雑な文章の正確な読み取りと理解および語彙の正確な意味の理解、活用ができる。	必要な情報を用い、課題や目的に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	自分の意見、他者の意見を論理的にまとめ、表現する力を高めるとともに、その向上を図ろうとする。
評価	A わかる 近代以降の様々な文章を通して、論理展開の形式や語彙、文学の表現技法等を正確に理解する。	論理展開や描写、表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確捉えて表現できる。	自らの意見をまとめ、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
基準	B できる 文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	自分の考えを適切に整理し、論理的かつ効果的に表現できる。	自分の考えをまとめつつ、周りの友人と共同して課題解決に努める。
基準	C する 文章展開および言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき、筋道を立て考えつつ、それを表現する。	授業に必要な教材の準備や、身だしなみ等を整える。
評価方法	授業時の観察・定期考査・小テスト・校内漢字テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト・レポート等	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での活動成果

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	[随想] 感性的な表現の読み取り方 [小説 (1)] 小説の基本的な読み方 [評論 (1)] 評論文の基本的な読み方
2 学期	[評論 (2)] 論の展開、論拠、要旨を的確にとらえる。 [小説 (2)] 小説の多様な在り方を理解する [短歌・俳句] 表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう [詩] 詩の構成に沿って、作者の心情をつかむ。
3 学期	[評論 (3)] 論の展開に沿って適切に読み取る。 [評論 (4)] 対比による論の展開を理解する。 [小説 (3)] 長編小説の展開を丁寧に追って作品の主題に迫る。

何で学ぶか (教材)

東京書籍『精選現代文B』
東京書籍『精選現代文B 学習課題ノート』
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、医療・福祉職で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
	自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができている。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は30秒、40秒）、新聞記事を使った意見文（結論→根拠の展開）、テーマ型意見文（400字、600字）、課題文要約
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型意見文・テーマ型小論文、医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事・出前授業について気付きや感想をまとめる、短歌（2種類）、スピーチ
3 学期	スピーチ（1分間）、テーマ型小論文、課題文型小論文、医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事について気付きや感想をまとめる、校外体験学習での気付き・感想をまとめる

何で学ぶか (教材)

オリジナル教材、日本経済新聞をはじめとした記事、医療と安全管理総集版（ニホンミツク）、専門学校・大学の過去問題、専門学校の出前授業、職業体験、講演・講座

どのように学ぶか (授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題、講演、各種医療体験

科目名	古典B	授業時数	週 2 単位	学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	語句の意味、文語や訓読のきまりを理解し、日本の文化の特質や外国の文化との関係について理解を深めることができる。	古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えるとともに、古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを深めることができる。	すすんでさまざまな古典の文章を読み、先人のものの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を深め、自分の思いや考えを広げることができる。
基	語句の意味、文語や訓読のきまりを理解し、日本の文化の特質や外国の文化との関係について考えることができる。	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるとともに、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	すすんでさまざまな古典の文章を読み、先人のものの見方、考え方との関わりの中で伝え合う力を深め、自分の思いや考えを広げようすることができる。
準	古文を読むために必要な最低限の文語のきまりや訓読のきまりについて理解しようとする努力ができる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	さまざまな古典の文章に親しみ、日本の伝統的な言語文化に対する理解を深めようすることができる。
評価方法	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文)『竹取物語』『徒然草』『方丈記』 (漢文)『矛盾』『推敲』『画竜点睛』『螢雪之功』『両頭之蛇』『朝三暮四』
2 学期	(古文)『伊勢物語』『百人一首』『枕草子』 (漢文)『太公望』『藺相如』『背水之陣』『赤壁之戦』『竹里館』『涼州詞』
3 学期	(古文)『枕草子』『平家物語』『更級日記』 (漢文)『黄鶴楼』『遊山西村』『雜説』『五十歩百歩』

何で学ぶか (教材)

明治書院『新 高等学校古典B』 数研出版『体系古典文法』 数研出版『体系古典文法 準拠ノート』 尚文出版『新明説漢文』 桐原書店『重要古文単語315』

どのように学ぶか (授業方法など)

講義・演習 (学級単位による授業)

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 生活から課題を発見し，事象を数学化することができる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し，問題解決の過程を振り返り考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
基	わかる 複合問題の構成を的確に捉え，適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基	できる 課題に対して適切な公式を選択し，解くことができる。	適切な用語・記号を使い，人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	する 基本的な式を計算したり，公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式
2 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数
3 学期	第6章 微分法と積分法

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学Ⅱ』 数研出版『3TRIAL数学Ⅱ+B』 補助プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学B	授業時数	週・2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	S 使える 数学的に解釈したり、数 学的に表現したりするこ とができる。	事象を論理的、かつ統合 的・発展的に考察し、簡 潔・明瞭・的確に表現す ることができる。	粘り強く考え数学を活用 し、問題解決の過程を振 り返り考察し、評価・改 善しようとすることがで きる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法 則を体系的に理解でき る。	事象を論理的に考察し、 問題を解決できる。	できないことに挑戦し、 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式 を使うことができる。	適切な用語・記号を使 い、過程や結果を書くこ とができる。	できないところを自ら人 に聞いたり、他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
	C する 簡単な計算や、目的に応 じて適切に式変形でき る。	問題文の意味を理解し、 用語や記号を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができています。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法	・ 授業 ・ 定期考査 ・ クリアテスト	・ 授業 ・ 定期考査 ・ 提出物	・ 授業 ・ 提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形
2 学期	空間のベクトル 等差数列と等比数列
3 学期	いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法

何で学ぶか (教材)

数研出版 改訂版新編数学B 数研出版 3TRIAL 数学Ⅱ+B プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語表現Ⅰ	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。	紹介するトピックを決め、原稿書いたり発表したりすることができる。	積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	A わかる	聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験に基づき、つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。	自分のことや与えられた課題について書いたり即興で話したりすることができる。	間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。
	B できる	モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。	学んだ文法を使って、文章を簡潔に書くことができる。	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。
	C する	学習した文法を理解し、知識として定着している。	例文を英語らしい発音で発話することができる。	授業を受けるための準備ができている。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	文の種類 文型と動詞 時制 助動詞
2 学期	受動態 不定詞 動名詞 分詞
3 学期	関係詞 比較 仮定法

何で学ぶか (教材)

啓林館『Vision Quest English Expression 1 Core』

どのように学ぶか (授業方法など)

講義・演習 ペア学習・グループ学習

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	身近な話題に関する記事、レポート、資料の概要や要点を理解し、必要な情報を読み取り、要点を理解することができる。	関心のある分野の話題について、英語を用いて具体的に説明したり、意見を述べることができる。	英語を活用し、自ら様々なことを表現しようとするすることができる。
	A わかる	身近な話題に関する短めな記事、レポート、資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて、自分の意見やその理由を短く述べることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	平易な英語で書かれたごく短い英文を読み、イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。	身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し、発音できるようにする。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson1 I'm the Strongest Lesson2 Tokyo's Seven-minute Miracle Lesson3 Saint Bernard Dogs Lesson4 Chanel's Style
2 学期	Lesson5 Science of Love Lesson6 Gaudi and His Messenger Lesson7 Letters from a Battlefield Lesson8 Edo: A Sustainable Society
3 学期	Lesson9 AI and Our future Lesson10 Bhutan: A Happy Country

何で学ぶか (教材)

LANDMARK Fit English Communication II 必携英単語LEAP

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	世界史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組み迫している。
	A わかる	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
	B できる	世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件と関連付けながら理解している。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	世界の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	過去の出来事が、現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし、授業に意欲的に参加し発言することができる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ヨーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか (教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	日本史B	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	歴史的思考力を培い、社会の変化に合わせてしなやかに成長し続ける人材となる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	A わかる 日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	B できる 日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化
2 学期	中世社会の成立 武家社会の成長 幕藩体制の確立
3 学期	幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺

何で学ぶか (教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることとともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき
2 学期	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境
3 学期	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と生態系 第5章 生態系とその保全

何で学ぶか (教材)

数研出版 改訂版 生物基礎 (316)
数研出版 リードLightノート 生物基礎

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 実験、実習 グループ活動

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	S 使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる 基礎練習を正しくおこなう、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか (教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか (授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	基礎体力	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進

目標 初動負荷マシンを利用したウエイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	初動負荷理論を理解し、それに基づいた動作・リズムをマシンで表現することができる。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身に付け、どこ筋肉・関節と連動しているかを理解している。	自分の身体の状態を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでのマシン動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	基本的なマシンの機能を理解し、動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体のしくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・グループトレーニング ・映像学習(動画)

科目名	国語表現	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	・文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることで自分の考えを深めている。	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
基	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	・文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることができる。	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重している。
準	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につける努力が見える。	・文章を読み、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて話したり、聞き取ろうとする努力が見える。	・国語で伝え合う力を高めるとともに、言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重しようとする努力が見える。
評価方法	・定期考査 ・課題確認テスト ・漢字テスト ・授業の取り組み姿勢	・定期考査 ・課題確認テスト ・ノートの整理 ・授業の取り組み姿勢	・授業に臨む姿勢、意欲 ・ペア学習、グループ学習

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	書いて伝える 小論文・レポート入門 自己PRと面接 メディアを駆使する
2 学期	声のコミュニケーション 会話・議論・発表
3 学期	回文・折句・詩歌 ポスター・パンフレットの作成 エッセイ・物語の執筆 ディベート

何で学ぶか(教材)

・大修館書店『国語表現 改訂版』 ・『改訂版漢字とことば常用漢字ワイドアルファ漢字検定7級～2級』(桐原書店) ・補助教材等(プリント)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習、グループ学習 プリント教材
--

科目名	数学A	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	場合の数と確率及び図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える 事象に対して適切な理解をし、適切に数学的な処理ができる。	事象を的確に捉え、それを数学的論理に基づいて言語で表すことができる。	自ら研鑽し、不明点を明確にしようと考え、行動できる。
	わかる 公式の意味を理解し、演習問題でどの公式を用いるか判断できる。	事象を的確に捉え、数学的論理を考察することができる。	授業での問いかけに発表をしたり、質問をすることができる。
	できる 授業資料や教科書を見ながら演習問題を解くことができる。	計算過程や考え方をノート等に表現することができる。	指示した課題を期限内に取り組むことができる。
	する 式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題内容、事象を把握し、状況を整理することができる。	板書や教員の発言に対してメモをとっている。
評価方法	定期考査 授業での演習	定期考査 授業での発表	授業態度 提出物の状況 授業での発表

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	場合の数 確率
2 学期	平面図形 空間図形
3 学期	約数と倍数 ユークリッドの互除法 整数の性質の活用

何で学ぶか (教材)

改訂版 新 高校の数学A (数研出版) 補助教材：ポイントノート数学A (数研出版) プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 学級単位での授業

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 自分の立場に置き換えて適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	多様な場面における言語活動に取り組むことができる。
	A わかる 相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本文や基本問題を読んだり、解くことができる。	新出単語や表現について理解し、適切に用いることができる。	授業に臨むための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタビューテスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	that節 to+不定詞
2 学期	分詞構文 形式主語 関係代名詞what
3 学期	過去完了形

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMET ENGLISH CommunicationⅡ』 数研出版『COMET英単語』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名	英語会話	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	The objective of this subject is to exercise the students English listening & speaking skills.			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える An advanced understanding of vocabulary & key expressions	An advanced written & verbal usage of vocab & key expressions	All tasks diligently completed in a timely manner
	A わかる An upper intermediate understanding of vocabulary & key expressions	An advanced written & verbal usage of vocab & key expressions	Above-average completion of all tasks with minimal supervision
	B できる An intermediate understanding of vocabulary & key expressions	An intermediate written & verbal usage of vocab & key expressions	All tasks completed but requires supervision
	C する An elementary understanding of vocabulary & key expressions	An elementary written & verbal usage of vocab & key expressions	Constant supervision & reminding of the task at hand required
評価方法	Written test	Oral test	Class supervision & observation

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson 7 - How was your vacation (How was/were/did" questions), Lesson 8 - I used to live in America ("How long ..." questions)
2 学期	Lesson 9 - What were you doing on ... (past progressive tense), Lesson 10 - Who is the funniest person ..(adjectives) Lesson 11 - How long have you ... (perfect present tense)
3 学期	Lesson 12 - I wish I were rich (Stating a wish or belief)

何で学ぶか (教材)

- Textbook "Atlantis English Conversation" - Various supplementary materials (prints, etc.)
--

どのように学ぶか (授業方法など)

Each lesson will introduce a different set of target vocabulary & grammar which the students will use in listening, speaking, writing & reading exercises.
--

科目名	世界史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め、意欲的に課題に取り組み追及している。
基	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ、他と協働しながら課題を解決することができる。
準	世界の歴史についての基本的な流れを理解し、その知識を身につけている。	問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
標準	世界の歴史についての基本的な事柄を理解している。	時代の変化を学ぶことで、今を生きる自分が過去の歴史とつながっていることを知る。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ヨーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか (教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることともに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき
2 学期	第3章 体内環境と恒常性
3 学期	第4章 植生の多様性と生態系

何で学ぶか (教材)

第一学習社 改訂版 新生物基礎 (319)
第一学習社 ネオバルノート生物基礎

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 実験、実習 グループ活動

科目名	体育	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育

目標 各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	できる 基礎練習を正しくおこなひ、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	準 する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか (教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか (授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	スポーツ概論	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	スポーツとは何か総合的に理解し、学んだことを競技力向上に繋げるスポーツ人を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 様々なスポーツから学び、取り組んでいるスポーツの競技力向上に繋げることが出来る。	他競技を分析し、自らで論理的に考え的確に専門競技で表現できる。	他競技の人と意見を交わしながら、自らの競技に繋げ評価・改善しようとする事が出来る。
	A わかる 取り組んでいるスポーツから課題を発見し、競技力向上に繋げることが出来る。	専門競技、自らの動作を分析し説明することが出来る。	スポーツにおける自らの改善点を振り返りながら仲間と共に競技力向上に繋げることが出来る。
	B できる 学んだ知識、技能を実際にスポーツで活かすことが出来る。	適切な用語・記号を使い、他者に分かるように説明することが出来る。	分からない点等を自ら人に聞いたり、他の者が困っている時に一緒に考察することが出来る。
	C する スポーツについて基本的な知識を学んだり、理解したりすることが出来る。	基本的な知識の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることが出来る。	授業を受けるための準備が出来ている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スポーツの魅力について スポーツのこれからとこれまでを考えよう 現代スポーツ/スポーツと社会について オリンピックとパラリンピックについて
2 学期	競技力向上に必要な知識について 競技を向上させる練習方法・練習計画
3 学期	メンタルトレーニングについて 指導体制や情報戦略について

何で学ぶか(教材)

大修館書店「改訂版 基礎から学ぶスポーツ概論」 プリント クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 タブレット教材 レポート作成

科目名	スポーツⅡ	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るようにする。体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動することができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S A B C	使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	できる 基礎練習を正しくおこない、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	準 C する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション・集団行動 バスケットボール バレーボール
2 学期	サッカー バドミントン
3 学期	バスケットボール バレーボール

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 ICT機器の活用

科目名	基礎体力	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	初動負荷マシンを利用したウエイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 初動負荷理論を理解し、それに基づいた動作・リズムをマシンで表現することができる。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる 関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身に付け、どの筋肉・関節と連動しているかを理解している。	自分の身体の状況を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでのマシン動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的なマシンの機能を理解し、動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体のしくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン
機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

- ・講義
- ・グループトレーニング
- ・映像学習 (動画)